

つながる、ひろがる まる博ものがたり

鹿沼まるごと博物館の活動や、鹿沼の自然や歴史・文化にまつわるホットな話題を紹介します。

文化課文化振興係 ☎(65)6741

第24回

人参奉行の墓



(※)「板荷かるた」は、昭和50年に渡辺保一郎氏が板荷小児童のために作ったかるたです。

長く板荷の子どもたちに親しまれている『板荷かるた』(※)。「に」の札は板荷の観音寺にある「一人参奉行の墓三基」です。なぜ鹿沼にこのようなお墓があるのでしょうか。
人参奉行の「一人参」とは、古くから薬として用いられるウコギ科のオタネニンジン(朝鮮人参・高麗人参のこと)を指します。日本に自生せず、とても高価だったため、江戸幕府の八代將軍徳川吉宗は、国産化を図ります。産地として選ばれたのが、栽培環境の適していた日光周辺でした。鹿沼でも一七〇〇年代中盤頃から人参の生産が確認できます。
一七六三年、幕府は板荷村に御会所(後の人参中製法所)を設置し、生産と流通を管理するようになりました。



▲人参中製法所掛役人の墓(伝人参奉行の墓)三基

製法所には毎年四月と七月に幕府吹上奉行の一行がやってきて、視察や加工などを行っていました。
人参奉行の墓に葬られている三人は、吹上奉行に従って江戸からやってきたものの、板荷で亡くなってしまった役人たちなのです。
令和八年四月、人参奉行の墓は、「人参中製法所掛役人の墓(伝人参奉行の墓)」として市指定有形文化財になりました。
『Made in 鹿沼』の先駆けとして、鹿沼で盛んに人参が生産されていたことを多くの人に知っていただきたいと思っています。

文化課 主査 堀野周平

財源確保のために広告を掲載しています。

広告

「使っていない不動産」に税金を払うのはもったいない!

ノーブルホーム・丸和住宅のグループ会社 //

売却や有効活用を検討しませんか?

固定資産税

子供の負担が大きくなるのでは…

使っていない不動産なのに税金が…

受け継がれた後の費用は誰が…

大切な不動産についてとちみらにご相談ください!

とちぎ未来開発(株) 営業時間 / AM9:00 ~ PM5:45 定休日 / 毎週水・日

お問合せはこちら ☎0282-24-5687

〒328-0075 栃木市箱森町19-26